

◇はじめに

I 教育をとりまく現状

1 子どもをとりまく状況の把握を

(1) 子どもや教育をとりまく状況～教育格差の循環

- 生活の困窮、教育格差～①もの（物的資源） ②人とのつながり ③生活経験が奪われことで→学ぶ意欲、セルフエスティーム、目標、ロールモデル＝生きる力、生き抜く力(生活を組み立てる力) が持てない。



子どもの居場所づくり＝学校の大切さ、学校へのニーズ

(2) 子どもの把握を

授業を実施するにあたっては、検証軸の子が生き生きとする展開を大切にしていく。検証軸の子とは、

- ① 被差別地区の子ども
- ② 「低学力」傾向の子ども（感想がなかなか書けない）
- ③ しょう害をもたされている子ども
- ④ 集団から疎外されがちな子ども
- ④ いい感想は書くが、日ごろの言動が気になる子ども（特に部落問題学習などにおいて）

2 部落問題学習、人権教育はすべての学校で

(1) 人権教育の4つの側面

①人権としての教育

- ・教育を受けること自体が人権であるであるという考え方に立った教育。

②人権についての教育

- ・人権や人権問題そのものについての教育(内容)

③人権を通じての教育

- ・人権が守られた状態で学習が展開されなければならないという考え方に立った教育

④人権のための教育

- ・人権を守り育てる社会や個人を育て、人権文化を築いていくことをめざす教育
→民主的制度への平等的参加、対話の促進、文化的多様性の尊重

(2) 部落差別に対する科学的認識とは

- 部落差別に関する歴史的認識（歴史認識）
- 部落差別の現実に関する認識（現実認識）
- 学校・地域等の実態に関する認識（実態認識）
- 同和問題解決にかかわる法・条例等に関する認識（法規認識）

→中学校社会科「歴史」「公民」を読もう。

(3) 社会を生き抜く力～差別を見抜き、差別を許さず、差別と闘う(なくす)
→感じ、考え、行動する

- ① 身の周りや社会への関心をもつ
- ② 差別を見抜く(不合理や矛盾を感じる)
- ② 他者への関心もち、その状況や思いを共感的に理解する
- ③ ③自他で課題を見出し、判断し行動する
- ⑤ 人とつながる(集団づくり)、社会に広げる

(4) 差別における7つの立場

3 差別の現実深く学び、部落問題学習の実践を～教師のアンテナを敏感に

(1) 当事者の思いに学ぶ

- ① 小学校1年生の「キャベツ」発言
- ② 6年生の歴史学習のできごと。その子の思いは。
 - (2) 子どもたちの発言をキャッチしたときがチャンス
 - ① 「ごみ収集のあとはくさい」の発言から～ごみの行方を追う
 - ② 「うるせえなあ」からの出発～北九州市の実践から(教師の協働性)
 - ③ 算数の問題づくりからその子の生活が見えてくる(促進学級指導から)

4 学校教育全体を通じての部落問題学習、人権教育＝課題としての日常性、顕現化される教師

(1) 人権感覚とは

- ・人権がもつ価値や重要性を直観的に感受し、それを共感的に受けとめ、自分の大切さと共に他の人の大切さを認める感性や感覚。
- ・人権が擁護され、実現できている状態を感知して、これを望ましいものと感じ、反対にこれが侵害されているような状態を感知してそれを許せないとするような価値とする価値志向的な感覚。

(2) 効果のある学校

- ・教育的に不利な環境のもとある児童生徒の学力水準を押し上げている学校。
- ・一人一人の個性やニーズに応じた基礎学力を獲得するためには学校・学級の中で現実一人一人の存在や思いや存在が大切にされるという状況が成立している学校。

(3) 隠れたカリキュラム

- ・教育する側が意図する、しないに関わらず、学校生活を営む中で児童生徒自らが学び取ったすべての事柄をさすものであり、隠れたカリキュラムを構成するのは、それらの場の在り方であり雰囲気である。

(4) 差別をなくそう、偏見をなくそうの「主語」を明らかに＝第3者はいない

5 これからの人権・部落問題学習に向けて

(1) クリティカル・シンキングとクリティカル・リーディング →〈交渉的読み〉

○クリティカル・シンキングの定義

- ・ものごとについて、正確に理解したうえで、何らかの価値基準に基づいて、本当に価値の高いものか、本当に正しいかを疑い、評価したり批判したりして課題を見つけること
- ・自分で見つけた課題について根拠をあげて説明し、グループや集団のなかでお互いの意見について評価し合って話し合い、課題を解決すること

○クリティカル・リーディングの定義～「受動的で消極的な読み」→「能動的で積極的読み」

- ・テキスト（文章や図表）を読んで、正確に理解したうえで、その文章の表現が本当に価値の高いものか、その物語の構成や終わり方は本当にそれでよいのか、作者の意見は本当に正しいのかなどと分析し、評価したり批判したりして課題をみつける
- ・自分が評価したり批判したりして見つけた課題について、根拠をあげて説明し、グループや集団の中でお互いの意見について評価し合って話し合い、課題を解決すること

(2) こんな子どもを

(3) こんな学校、授業を

(4) 「人権教育・啓発に関する基本計画(第二次)」～2025年6月23日 法務省

(5) 人権教育のキーワード

○アンコンシャスバイアスとマイクロアグレッション

○バリアフリーからユニバーサルデザイン・インクルーシブへ

○人権問題の視点からSDGsに学ぶ

II 中学校社会科(歴史・公民)にみる部落差別・人権問題～義務教育で教えること

1 教科書無償の闘い～教科書に込められた願い

- ・社会科教科書の部落問題記述について～部落差別に対する科学的認識を

→1972年(中学校)、1974年(小学校)の社会科教科書に部落問題が記述

すべての学校において「部落差別に対する科学的認識」を育てる

→教科書の改訂による深まり～部落史の深まりを反映、「労働と文化」という視点を踏まえた記述。

→表記～「農民」→「村人」→「百姓」など、最近の部落史の成果を取り入れた記述が見られる。

2 部落差別とは～中学校社会科「歴史分野」から

3 部落差別・人権とは～公民分野から

4 近代以後の部落差別撤廃のあゆみ(概略)

◇おわりに

- ・系統的積み上げを～副読本や自主教材との関連化
- ・「部落差別抜き」の実践にならないように～中学校の「歴史」「公民」分野を読んでもみよう
- ・教師としての自分自身の問い直しを～教職員集団で語り合おう
→教育に対する思いや部落問題、人権・同和教育との出会いなどを振り返る